

令和5年度第2回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和5年4月25日（火） 午後7時～午後9時

■開催場所 多摩市役所 本庁舎3階 特別会議室

■出席委員 12名（50音順）

朝日 ちさと会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、尾中 信夫委員、
勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、春田 祐子委員、福井 博文委員、
細野 佳苗委員、田中 和則委員

■欠席委員3名（50音順）

宮本 太郎副会長、高木 康裕委員、鷲尾 和彦委員

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、
池田主任、上川主任

■傍聴者 1名

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 「第六次多摩市総合計画」における基本構想案について
- 3 「第六次多摩市総合計画」における基本構想答申書について
- 4 その他

閉会

【開会】

出席委員数は12名であり、定足数に達しているため審議会は成立した。

【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料51）の確認を行い、修正等なく了承された。

【2 「第六次多摩市総合計画」における基本構想案について】

事務局より資料53について説明。

○第1章 新たな基本構想策定の背景

委員 「令和4（2023）年2月には」とあるが、「令和4（2022）年」と修正いただきたい。
事務局 修正する。

○第2章 まちづくりの基本理念

会長 第2章には修正等がないことを確認した。

○第3章 将来都市像

会長 事前協議を踏まえた修正案についてご意見をいただきたい。

委員 これからの多摩市をつくっていく主体としては企業、個人、団体・NPO等がある。支え合うだけでなく相手を尊重する、認める、見守る、切磋琢磨しながら新しい価値を創り出していきたいので、それを表現する言葉としてこの審議会では「つながる」を使ってきた。つながりの中で価値を創り出していくことを都市像と考えてよいと考えるが、それを表現するには「支え合う」だけでは物足りない。「支え合う」は、福祉では高齢者を何人の子どもが支えるという言い方もあり、どうしてもそちらにイメージがいく。また、支えるはどちらかというとな静的なので、動的なニュアンスの言葉として「つながる」はどうか。もう一つの案に「つながる」が入っているが、そちらには「にぎわう」が入っており、やや抵抗がある。「みんながつながり」との言い方にも少し違和感がある。案としては「つながりつくる いきいきとかがやける」等動きながら創り出すニュアンスの言葉がほしい。ただ、将来都市像案はこれまでの議論を踏まえたものであり、原案を尊重したいと思う。

委員 動きが見えないということであれば、「つながり支え合い」とするのはどうか。

委員 当初、「支え合い みんながいきいきとかがやけるまち たま」は「みんなが」が「いきいきとかがやける」にかかることでこれまでの議論が反映されていると思っていた。

つながることができる人以外でも伝わるという意味もあるので「つながり支え合い」もよいと思うが少し長い。「支え合い」その結果「みんながいきいきとかがやけるまちたま」のほうが伝わりやすいとも思う。

会長 「つながり支え合う」というご意見もいただいた。説明文ではその意図があるが、将来都市像の語感として動きが感じられるか。長さも含め、フレーズとして伝わりやすいかどうかとの観点でご意見をいただきたい。

委員 説明文にもあるとおり、いろいろな価値観があり、何かとつながることが重要な時もあるが、認めあって尊重し合うことも重要と考える。しかし全てを入れると長くなるため、例えば「つながり支え認め合い いきいきとかがやけるまち」とするのはどうか。「みんなが」を削ってもニュアンスは伝わる。

委員 「いきいきとかがやける」についても、「いきいき」がなくてもかがやいていれば「いきいき」しているとも言えるのではないか。

委員 「いきいきとかがやける」は、「みんな」が入っていると人が中心と捉えられるが、「みんな」を外すことで動植物までを含めた全体に言及することになるので「つながり支え認め合い いきいきとかがやけるまち」とするとよい。

会長 将来都市像の文言を変える方向で議論が進んでいるが、事務局としてはいかがか。
事務局 今はこれまでの議論からどの言葉を使うか、キーとなる言葉を出していただいているところと認識している。この後のパブリックコメント、議会説明などに向け、審議会の総意として1案にまとめていただきたい。

会長 キャッチフレーズとしては原案より長くなるが、どう思うか。

委員 文が長くなり2段になるとしても、必要な言葉を示したほうがよい。

事務局 原案の文字数は22文字、「みんなが」を除き、そこに付け足すので、2文字の増加であり、そこまで長さを気にするほどではないと考える。

会長 「つながり支え認め合う いきいきとかがやけるまち たま」でよいか。

委員 「認め合い」だと後ろを修飾する形になる。「認め合う」でも文としてはよい。

委員 「認め合い」のほうがスマートに聞こえる。「認め合い」は状態を示し、「認め合う」は行為を示しているので、「認め合い」がよい。

会長 元の案の精神はそのまま、伝わりやすくするためのご意見をいただいた結果、「つながり支え認め合い いきいきとかがやけるまち たま」とさせていただきます。

将来都市像の説明文についてご意見はあるか。

委員 「豊かなみどり」や「豊かな環境」「豊かな自然」は多摩市の重要な特徴であるため、例えば「豊かなみどりのなかで～」などの文言を「いきいきとかがやける」のニュアンスに含ませ、加えられないか。また、成長に向けて踏み出すという意図は分かったが、もう一步踏みこんで「踏み出し、展開できる」という言葉を加えてはどうか。

委員 「豊かな自然環境のなかで」は、多摩の状態を示しているので入れたほうがよいと感じた。だが「多様な動植物などと共存し」の部分が引っかかる。「など」は何か、「など」は必要か。

会長 前は「多様な動植物など全ての命」となっていたと思う。

委員 細かく言うと微生物なども入ってくる。全ての命、としたほうが分かりやすい。だが

ここでは生物多様性の話とはニュアンスが違う気がする。

委員 「多様な動植物などとも共存し」の後に入れ、「豊かな自然環境のなかで活気や生命力にあふれている状態」としてはどうか。

委員 成長については、若者が起業するなど、既に努力、チャレンジをしている。彼らにとっては既に踏み出しているのだから次は展開できることが必要かなという気がする。

会長 「成長に向けて踏み出し展開できるまちを育て続け…」としたい。前半の文章が若干長くなるが、ここではこの文章とする。

○第4章 分野横断的に取り組むべき重点テーマ

委員 言葉の使い方について、健幸まちづくりの説明に、「身体面での健康だけでなく」とあるが身体面に限らず心身面としたらどうか。

事務局 多摩市の健幸まちづくりでは「身体面」としている。

委員 そうであるなら了解する。

委員 うろ覚えではあるがWHOの健康の定義では、心の健康も含まれていたと記憶している。

事務局 もともところでの健康は、持病がある人や病気の人でも、病気が治った状態を目指すのではなく、今の状態をベースに、病気であっても生きがいなどを得られることを目指すものである。身体面と書いているが心の部分が全く含まれていないわけではない。

委員 WHOでは、健康を「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、全てが満たされた状態にあること」としている。

委員 「身体面での健康だけでなく」と、ここで前置きせずに、なくしたほうがよいのではないか。誰もが幸せを実感することが健幸の本質なのではないか。

事務局 「健幸まちづくり」自体が、第五次多摩市総合計画第2期基本計画からで、第3期では基盤となる考え方に据えてきた。「身体面の健康だけでなく」の表記で今まで継続・展開している。今回基本構想に昇華される形で、ここで定義を変更していいものかという思いもある。

会長 この概念に取り組んできて達成もされてきているので、ここでは取組の連続性を尊重することとする。

○第5章 分野別の目指すまちの姿

1 子どもの成長をみんなで支え、ともに生きるまち

会長 こちらについては修正等がないことを確認いただいた。

2 支え合いのなかで、いつまでも安心して暮らせるまち

委員 事務局説明からすると、「多摩市障がい者への差別をなくし共に安心して暮らすことのできるまちづくり条例」を踏まえると、国籍や価値観ということに触れることで障害についてが薄まっているということではどうか。

事務局 将来都市像の説明文の多様性の部分にここにかなり近い表現があり、分野別では障が

い福祉の分野も含まれているため、全体の将来都市像よりもっと絞った形にしても良いのではと考えている。

委員 その通りだと思う。ここでは障がい者について丁寧に記載したほうがよい。国籍と価値観については将来都市像で述べているため、ここではあえて入れる必要はないと考える。

委員 「差別することなく」の文について、年齢や性別、障害は記載されているのになぜ国籍や価値観については記載がないのか疑問に思われるのではと心配になったが、ここは健康、医療、介護、福祉分野であるため、ここでの記載は不要と考える。

会長 「年齢や障害のあるなしに関わらず」とし、性別・国籍・価値観は別で対応する形としたい。

3 地域で学び合い、活動し、交流しているまち

委員 修正箇所にも異論はないが、今回修正のない部分の2段目の「これによって、新たに活動する人が増えていく」について、人が増えていくことももちろん大事ではあるが、「新たな活動が生まれ、増えていく」との表現とし、活動に焦点を当ててはどうか。

会長 そのように修正をお願いしたい。

4 みんながいきいきと働き、集い、活気と魅力あふれるまち

委員 「地域産業」に地域の商店や飲食店について「イノベーションが生まれ地域産業が成長するとともに、」の次に「地域の商店や飲食店が大切にされ維持発展していく」等、書き加えられないか。

委員 前回審議会では、業種別事業者数で卸・小売業が1番多く、次いで宿泊・飲食サービスとなっており、地域産業では大きいウェイトを占めるという説明があった。

委員 前回そのような説明だったが、今回改めてみると地域産業の修飾語が「事業者や大学など地域の多様な主体が交流し、連携することを通して、イノベーションが生まれ」とあり、この言い方では商店に当てはまらないという気がする。

事務局 実態として多摩市に商店のカテゴリーに入る店がほとんどない状態であり、商店という言葉で言いきってしまうと逆に現状を見ていないと取られる。大きな括りで捉える言葉が適切と考えた。

委員 基本構想では全体として示す必要があることは承知している。基本計画では、商店についても記載していただきたい。

事務局 今までの施策から考えると基本計画では商店街振興で書き出すことになる。いずれにせよ発言の趣旨は理解させていただいている。

委員 多摩センター、聖蹟桜ヶ丘、永山等でも地域の商店・飲食店等の小売があって住民の生活が成り立っている。地域の商業が構想にも入っていることを示したいと思い発言した。地域産業の形容詞となる部分をもう少し幅広で書いていただければと思う。

会長 小売であってもスタートアップ企業、決済方法などイノベーションはかなり議論になってくると思う。

委員 その点は承知した。ただ、地域の産業にはそこを利用する市民の協力、そこから生ま

れるものも必要と感じる。「市民や事業者、大学など」とし、地域密着型のニュアンスを入れることはできないか。

委員 3段落目にも「市民や市民団体、事業者が協力し」という文言があるため、1段落目に「市民や市民団体」を入れてもよいが、同じ文言を繰り返す必要はあるのかという思いもある。1段落目に主体に関する記載を入れ、それが3段落目にかかっていることが分かればよいかもしれない。

会長 今のところ、地域にある資源を活かしたまちづくりや観光については市民が入ってくるという構造になっている。

委員 市民についての記載も入れたほうがよいとも思うが、同じ言葉の繰り返しになるのはよくないとも感じる。1番目、3番目の文はつながっているので、3段落目を2段落目に移し、1行目に「市民や市民団体」という言葉を入れれば、順番を入れ替えることで、地域の資源を活かしたまちづくりから1行目につなげても意味は通じると考える。

会長 今は分野を産業振興、都市農業、観光という順で記載しているが、観光は産業としての役割をかなり期待されているので、並び替えることもありとは思う。1文目に「市民や市民団体、事業者、大学など地域の多様な主体が交流し」、2文目は「また、～」としてつなげるという方向で修正いただきたい。

5 みんなが安心して快適に住み続けられるまち

委員 この内容であれば、都市マスタープランと十分にすり合わせできると考える。

6 地球にやさしく、水とみどりとくらしが調和したまち

会長 こちらについては修正等がないことを確認いただいた。

○第6章 行財政運営の基本姿勢

委員 「職員の人財育成」に関しては組織運営との2本柱とし、例えば表題を「職員の人財育成と課題解決型の組織運営」とし、育てた人財を組織運営でどう活かすか、人財を活かして課題を解決する組織運営を目指すことを記載いただきたい。その趣旨で、「働き方や登用を多様化することで」に変えて「課題解決型の組織運営を進め」としてはどうか。

委員 組織については、行政は縦割りと言われるため、連携、横串の文言を追加いただきたい。

事務局 職員がいろいろなところと連携したいと考えていても組織がそれを許容しなければ進まないで、これからの行政で大事なものは4点目のいろいろな主体との連携であると考えている。4番目の結びのところで「柔軟な組織運営を行う」としている。

委員 意図は理解したが、表題に「多様な主体とのパートナーシップ」とあるためそうは読めない。庁内では横串・連携・プロジェクトチームのような形での課題解決のための組織運営を行い、庁外とはパートナーシップを組んで広域的な課題に取り組むという形でやっていくと、確かに4番目の内容と関連する。「多摩市の課題解決型組織運営」につ

いては2番目か4番目に記載いただきたい。

委員 4つの下に「上記の目的達成のために組織運営…」と記載するのはどうか。4つを横串的に行うのが柔軟な組織運営、という書き方もあるのではないか。

委員 やはり、4番目はこのままで、2番目の人財育成に組織運営を追加して書くのがよい。人財育成の記述を少し整理し、例えば「横串の組織運営など課題解決型の組織運営を進め」の1文を入れ、表題も修正いただきたいと考えている。

事務局 人財育成のところに組織運営を追加する点については検討させていただく。「課題解決型」については、以前バックキャスト、フォアキャストという話があったが、もともと行政には課題解決型が得意なところがある。今回の基本構想にも、これからは不確実性があるなかで未来を志向していくという表現が入っているなかで、課題を解決していくだけでよいのかどうかと考えている。

委員 4つ目に「課題に直面していくことが予想されます」とあるが「課題解決とビジョンを達成するためには」とすれば、課題だけではなくなると思う。

委員 そのうえで、「そのための組織運営を進めていきます」という表現ではいかがか。

委員 「デジタル技術等の活用」の1行目「市民の一人ひとりが」から3行目の「創造していきます」まではデジタル技術活用の話ではない。この文を受けて、「職員の人財育成」「公共施設等のマネジメント」「多様な主体とのパートナーシップ」をやっていくという話だと思うので、この部分は前段にあってもよいと感じた。デジタル技術の活用については庁舎内の効率化の話もあると思うが、市民や企業のアイデアを取り入れることも効率化や発展的な方向性につながるため、その要素も入れるとよい。市民にマンホールの写真を撮影してもらい劣化を調査することやChatGPTの活用などの例もある。世の中の新しい技術やアイデアを行政が積極的に取り入れるとよい。

会長 いただいたご意見から、表題との整合性や文章をどう記載するか等の議論をするには時間が足りず、ここでの確定は難しいため、後程お伺いすることになると思う。

事務局 まず、第6章以外については確定とし、今回の意見を踏まえた最終案を会長と相談し、メール等でご確認いただき確定したいと考えている。

会長 以上をもって、基本構想の確認は終了とする。

【3 「第六次多摩市総合計画」における 基本構想答申書について】

事務局より資料54について説明。

事務局 「はじめに」についても追加のご意見等があればお寄せいただきたい。改めてメールでお知らせするが期間を一週間程度とし、いただいた意見を踏まえて修正したものを、基本構想の調整箇所と併せて、会長に確認いただく。

会長 次第2と同様、預からせていただく。

【4 その他】

事務局 答申について、次回委員の皆様にお集まりいただくのは5月30日の審議会となるため、その前に会長から答申をいただくことになる。5月30日からはいよいよ基本計画の検討に入らせていただく。当日は写真撮影も予定している。

また、7月以降に土日の日中に審議会を行うことを考えているため、別途日程調整をしたいと考えている。

5月13、14、21日の3日間で基本計画策定に向けたワークショップを開催予定であり、よろしければ見に来ていただければと考えている。

会長 これにて令和5年度第2回審議회를閉会する。

【閉会】

以上